

チョウ目害虫抵抗性トウモロコシ MON89034 系統（スイートコーン）に係る食品健康影響評価について

### 1. 経緯

遺伝子組換えトウモロコシ「チョウ目害虫抵抗性トウモロコシ MON89034 系統（スイートコーン）」（以下「MON89034 系統（スイートコーン）」という。）については平成 25 年 10 月 10 日付けで遺伝子組換え食品の安全性審査の申請があったことから、食品安全基本法（平成 15 年法律第 48 号）第 24 条第 1 項の規定に基づき、食品安全委員会に食品健康影響評価を依頼するものである。

### 2. 評価依頼品種の概要

MON89034 系統（スイートコーン）は、既に安全性審査の手続を経た旨の公表（平成 19 年 11 月 6 日官報掲載）がなされているチョウ目害虫抵抗性トウモロコシ MON89034 系統（以下「MON89034 系統（デントコーン）」という。）を従来の交配手法を用いてスイート種のトウモロコシに掛け合わせたものである。

MON89034 系統（デントコーン）は、チョウ目害虫抵抗性を付与するために *cry1A.105* 遺伝子及び改変 *cry2Ab2* 遺伝子をデント種に属するトウモロコシに導入したものである。

*cry1A.105* 遺伝子は *Bacillus thuringiensis* subsp.*kurstaki* 及び *Bacillus thuringiensis* var. *aizawai* に由来する遺伝子をもとに合成され、改変 *cry2Ab2* 遺伝子は *B. thuringiensis* subsp.*kurstaki* に由来する。

*cry1A.105* 遺伝子及び改変 *cry2Ab2* 遺伝子によって産生される Cry1A.105 タンパク質及び改変 Cry2Ab2 タンパク質は、トウモロコシ栽培で発生するチョウ目害虫に対して殺虫活性を示す。

スイート種とデント種は遺伝的に同質であり、育種素材としてお互いに交配することは従来のトウモロコシ品種改良において一般的に行われており、MON89034 系統（デントコーン）を従来の交配手法を用いてスイート種のトウモロコシに掛け合わせた MON89034 系統（スイートコーン）においてもその遺伝的形質は変化していない。

### 3. 利用目的および利用方法

本品種の食品としての利用目的や利用方法は、従来のスイート種のトウモロコシと相違はない。

#### 4. 諸外国における申請等

MON89034 系統（デントコーン）の規制承認状況を以下に示す。なお、米国、カナダ、オーストラリア及びニュージーランド、EU における MON89034 系統（デントコーン）の承認は MON89034 系統（スイートコーン）を含む。

申請国	申請・確認年月	申請先
米国	2007年8月確認終了	米国食品医薬品庁（FDA）
カナダ	2008年5月承認	カナダ保健省（HC）
オーストラリア/ ニュージーランド	2008年12月承認	オーストラリア・ニュージーランド食品基準局（FSANZ）
EU	2009年10月承認	欧州食品安全機関（EFSA）